

第45回 原爆 死没者慰霊式

新たに5名の 方々の御霊を合祀

72回目の「長崎原爆の日」を迎えた8月9日、第45回国鉄原爆死没者慰霊式が長崎市浦上駅構内の慰霊碑前で執り行われた。1973年の第1回式典より45回目を迎え、今年新たに5名の方々の御霊が合祀され、累計で214名の方々の御霊が合祀された。

実行委員長の豊田照二長崎地区本部委員長は、慰霊碑の清掃や維持管



【追悼の言葉を捧げる菊池忠志国労中央本部委員長】

理に協力を頂いている鉄道退職者の会他関係者に謝辞を述べ、当時国鉄当局と粘り強い交渉で原爆被爆者対策協議会に尽力を頂いた今年合祀された旧門司地方本部元委員長の宮園静雄さんを偲んだ。

また、国連本部での条約交渉会議に触れ、被爆者の願いと取り組みの成果が明記された事は評価しつつも唯一の被爆国の日本が積極的に参加しない事態に怒りと抗議を発し、先輩たちの運動の意思を継ぎ、原水爆禁止、核廃絶、世界の恒久平和を強く訴える事を誓った。

原爆被爆者対策協議会会長の菊池忠志国労中央本部委員長は、世界で初めての原子爆弾が広島につき長崎に投下された今日、戦争の悲惨さと



【挨拶をする豊田照二長崎地区本部委員長】

後遺症に苦しみながら生涯を国鉄に捧げられた先輩達の勇姿に敬意を表し、恒久平和と核廃絶に向け誓いを新たにしたい。

さらに、「戦争のできる国づくり」へと突き進む安倍政権を批判し、真の平和を確立するために戦争と原爆の悲惨さを後世に伝える核兵器開発につながる全ての核実験に反対していくと慰霊碑に眠る尊き御霊に追悼の言葉を捧げた。

九州旅客鉄道長崎支社の堤和信副支社長は、被爆地へいち早く救援列車を動かし、わが身を省みず国鉄職員としての使命を全うされた諸先輩方に敬意を表し、社員一人ひとりが「命」の尊さを再認識し、後世に伝え、ゆるぎない平和を築き上げていくと決意を新たにしたい。

そして、JR九州は30年目となり、昨年株式上場を果たしたことを報告し、これから先も「安全とサービス」



【炎天下での清掃活動、7月21日】



【慰霊式終了後の懇親会『割烹ひぐち』】

を基盤とし、命をかけて守り抜いていただいた九州の鉄道を地域の皆様から愛され親しまれる鉄道にしていきたいと追悼の言葉を代読した。

遺族、関係者、組合員約100名が献花した。